



UNMANNED

無人駅の芸術祭 / 大井川

Unmanned Station Art Festival, OIGAWA

2020 開催報告書

NPO 法人クロスメディアしまだ

島田市日之出町 2-3

TEL0547-35-0018

UNMANNED

無人駅の芸術祭／大井川

Unmanned Station Art Festival, OIGAWA

| 事業報告 | 目次 |

01 概況	…2
02 開催概要	…3
03 メインビジュアル	…4
04 アーティスト及び作品実績	…5
05 関連イベント&プログラム	…12
06 その他の取り組み	…14
07 無人駅の芸術祭推進会議	…15
08 ボランティアサポーターの活動	…17
09 来場者対応	…18
10 広報	…19
11 来場者数&アンケート	…25

01 概況

UNMANNED 無人駅の芸術祭／大井川は、3 回目の開催を迎えた。これまでの芸術祭に引き続き「無人駅が開けば地域が開く」をテーマに、大井川鐵道の無人駅 6 駅（代官町駅、神尾駅、福用駅、抜里駅、塩郷駅、駿河徳山駅）と 3 つの集落（福用エリア、抜里エリア、塩郷・久野脇エリア）周辺を舞台に、計 17 日間開催した。

国内外で活躍する 13 組のアーティストが参加し、無人駅とそこから広がる集落の資源に焦点をあてた作品や、地域の人々と一体となった体験型の作品を展開したほか、高校生や大学生との協働プロジェクトなど多様な展開に取り組んだ。

新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、公式ガイドツアーをはじめ、地域のお茶に関わる取り組みや、記念講演会など、芸術祭に関連するイベントの中止決定や広報の不足などがあったが、市内外からも多くの来場者があった。特に県外からの来訪者も多くみることができたことは、当芸術祭が一定の認知とともに、定着をしてきたことを強く感じる。

アーティストのプランにおいては、「人」がテーマとなる作品が多くみられたことが今年度の大きな特徴であったといえる。アーティストが地域の資源として、「人」を発見し、表現の軸に据えたことは大きな成果であり、芸術祭を中心とした、アーティスト、地域住民、来訪者のコミュニケーションが図られる要素となった地域意識の変革や、来訪者による地域発見につながったといえる。

今年度より、2市町にまたがるエリアを対象とした芸術祭の、2市町の行政担当者、大井川鐵道、地元自治会やコミュニティ、静岡県による推進会議を計4回実施した。広報、来訪者管理など運営面での協議を実施した。準備や進捗の共有とともに、意識の共有ができたことは一定の成果であった。

芸術祭を支える地域住民によるサポートの体制やボランティアサポーター「あんまん部」は、複数年の取り組みから複数年の取り組みを通じ理解と期待の高まりを感じた。地域住民によるアーティストの滞在支援をはじめ、作品の制作へのサポート体制はもちろん、会期中の経路やアクセス案内や、作品の説明、自然発生的に行われる来訪者へのおもてなしなど、主体的に芸術祭に関わる姿勢が生まれてきていることは大きな成果であり、地域の活性化や再生につながる取り組みが着実に根付いてきている。

芸術祭を核として、アーティスト、地域住民、来訪者、サポーター等、多様な人の化学反応が今後ますます加速していき、進めることできた。

02 開催概要



UNMANNED 無人駅の芸術祭/大井川 2020

Unmanned Station Art Festival, OIDAWA 2020

会 期 2020年3月6日(金)—22日(日)
計17日間

会 場 大井川鉄道無人駅周辺(島田市・川根本町)

参加作家 関口恒男、江頭誠、さとうりさ、木村健世、北川貴好、栗原亜也子、ニシダヒデミ、夏池篤、
中村昌司、形狩り衆、クロダユキ、カトウマキ、常葉大学造形学部
計13名

主 催 NPO法人クロスメディアしまだ

共 催 静岡県文化プログラム推進委員会

協 力 大井川鉄道株式会社、島田市、川根本町

助 成 島田市文化プログラム支援事業
福武財団(アートによる地域振興助成)
静岡県文化財団ふじのくに文化プログラム推進事業助成

公式サイト <http://unmanned.jp/>

運営事務局 UNMANNED 無人駅の芸術祭/大井川 運営事務局(NPO法人クロスメディアしまだ)
静岡県島田市日之出町 2-3 TEL&FAX0547-35-0018

03 メインビジュアル

無人駅から広がる集落に暮らす人々とともに、アート作品をイメージさせるメインビジュアルに展開した。ポスターやチラシなどの印刷物、公式サイトなどに展開し、芸術祭の魅力を伝える重要なコミュニケーションツールとなった。

メインビジュアル(ポスター)



メインビジュアル(ティザーチラシ)



公式ウェブサイト



04 アーティスト及び作品実績 =====

計 13 組のアーティストが参加し、作品や表現の発表を行った。

	アーティスト	作品タイトル	作品設置場所
1	関口恒男	福用レインボーハット	福用駅エリア(北五和スポーツ広場)
2	木村健世	無人駅文庫	抜里駅・駿河徳山駅・福用駅(ホーム)
3	さとうりさ	地藏まえ3(サトゴシガン)	抜里駅駅舎
4	江頭誠	間にあるもの	抜里駅エリア(ぬくりプラザ)
5	北川貴好	茶屋せんべや	抜里駅エリア(せんべや)
6	栗原亜也子	かみさまたちのまちじかん	塩郷駅、久野脇親水公園キャンプ場、大井川河川敷
7	ヒデミニシダ	境界のあそび場／うかぶ縁側	抜里駅(駅から広がる茶畑)
8	夏池篤	暖まっていきなよ!	福用駅駅舎
9	中村昌司	黒いオツパイ	神尾駅
10	形狩り衆	顔の家	魚屋アト
11	クロダユキ	記憶の気配	佐澤薬師堂
12	カトウマキ	ここで、咲く。	代官町駅・塩郷駅
13	常葉大学造形学部	星空のSL	抜里駅エリア(ぬくりプラザ)

アーティスト 関口恒男

作品タイトル 福用レインボーハット

作品設置場所 福用駅エリア(北五和スポーツ広場 福用駅東側グランド先)

水の中に鏡を入れ、太陽の光を反射することによって虹を作り、木の枝などで作った質素なハット(HUT= 小屋)の内部に投影。原始人たちが火を囲んで踊っていたように、虹をよりどころとして、人々が集い、共に遊び学ぶ場を作る。自然素材で作ったドーム型のシェルター内部に水と鏡のプリズムで虹を作る。シェルターは「自分自身を理解するためのダンスを踊る空間」のためのもの。



アーティスト 木村健世
作品タイトル 無人駅文庫
作品設置場所 抜里駅・駿河徳山駅・福用駅(ホーム)

駅に佇む、人々によって紡がれた数々のストーリーを文庫目録に収録。無人駅という場を、様々な時代・様々なストーリーと重ねて体験したときにあなたの目の前にはどんな風景が広がるだろうか。抜里編に加えて過去に作られた 2 作品(福用編、駿河徳山編)も同時に展示。



アーティスト さとうりさ
作品タイトル 地蔵まえ3 (サトゴシガン)
作品設置場所 抜里駅駅舎

「パブリックアートもお地蔵さんのように地域に馴染むのは可能か」というテーマで3回目の参加となる今年は、ご家庭でオブジェ作品を預かってもらうプロジェクト「サトゴシガン(里子志願)」を 20 年ぶりに実施。果たしてパブリックとプライベートの境界線はどこに？



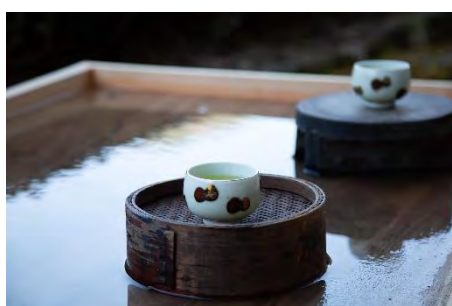
アーティスト 江頭誠
作品タイトル 間にあるもの
作品設置場所 抜里駅エリア(ぬくりプラザ)

旅先で現地の方から”もの”をいただくと家に帰ってその人のことを思い出しながら、その”もの”を愛でることがよくある。また道端に落ちている”もの”を見つけたときも、その”もの”がそこにある経緯や”もの”の背景にいる誰かを想像する。誰かと自分の間に”もの”があることで新たなコミュニケーションが生まれるきっかけを作る。



アーティスト 北川貴好
作品タイトル 茶屋せんべや
作品設置場所 抜里駅エリア(せんべや)

駄菓子屋、鋳型工場という経緯を経た元工場。地元の人には今も「せんべや(せんべいや)」と呼ばれるこの場所で、せんべいやの記憶から集落の人の将来についてもインタビューし、人々の思いが「せんべや」というモチーフを中心に広がっていくインスタレーションを制作。



アーティスト 栗原亜也子
作品タイトル かみさまたちのまちじかん
作品設置場所 塩郷駅、久野脇親水公園キャンプ場、大井川河川敷

塩郷駅から吊り橋をわたり、久野脇の坂道をのぼって佐澤薬師堂から眺めることができる。大井川の「神の瀬（かんのせ）」。神無月に出雲に向かう神様が待ち合わせした場所だという。“もし、かみさまたちがその待ち時間に現代のボードゲームに興じていたら”という想像のもと、久野脇エリアや駅の待合室に「あそびの痕跡」をつくる。



アーティスト ヒデミニシダ
作品タイトル 境界のあそび場／うかぶ縁側
作品設置場所 抜里駅（駅から広がる茶畑）

大井川流域の地域では、対岸との人の行き来、物資の運搬、情報の伝達といったことに様々な工夫がされてきた。吊り橋をかけたりロープを渡したり、山の上から遠くへ目を凝らしたり。こうした「彼方への意識」を楽しむ場として、茶畑の上空に立ち上がった大きな縁側を立ち上げる。ゆっくりと、どこか彼方を眺めてみる時間を提供する。



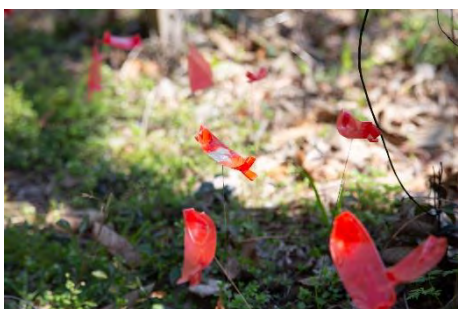
アーティスト 夏池篤
作品タイトル 暖まっていきなよ！
作品設置場所 福用駅駅舎

エアコンの冷媒管を使って酩酊状態にある人物を形作り大井川鉄道のベンチに配したもの。暖房運転中のエアコンは、吹き出し口から出る暖気と、加熱された冷媒管により周囲を温める。この芸術祭を見学に来られた方にアート作品として展示すると同時にホットなサービスを提供する作品。



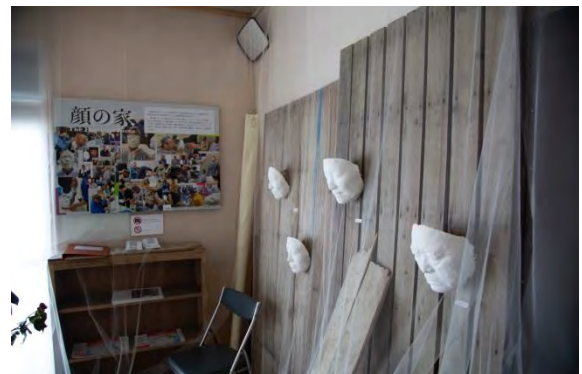
アーティスト 中村昌司
作品タイトル 黒いオツパイ
作品設置場所 神尾駅

かつてこの大井川すじに 1 万人を超える朝鮮の人たちが働いていたという。ダム建設から発電所の工事、鉄道の敷設など危険をともなう工事によって多くの犠牲者も出た。黒いオツパイドームの中の赤い船に乗り彼らのことに思いを馳せる。



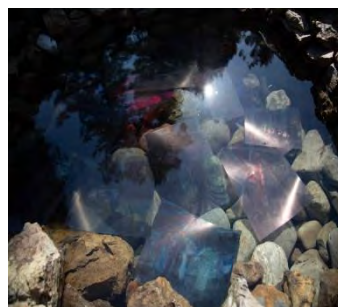
アーティスト 形狩り衆
作品タイトル 顔の家
作品設置場所 魚屋アト

「顔の家」は、この地域に住む人々が互いを愛しみ、「ライフマスク」をその唯一無二の存在証明として永遠に残そうとするもの。ワークショップで、お互いの顔から石膏で型を取り、出来上がった「ライフマスク」を集めて「顔の家」に保管し芸術祭会期中には一般に向けて公開展示する。



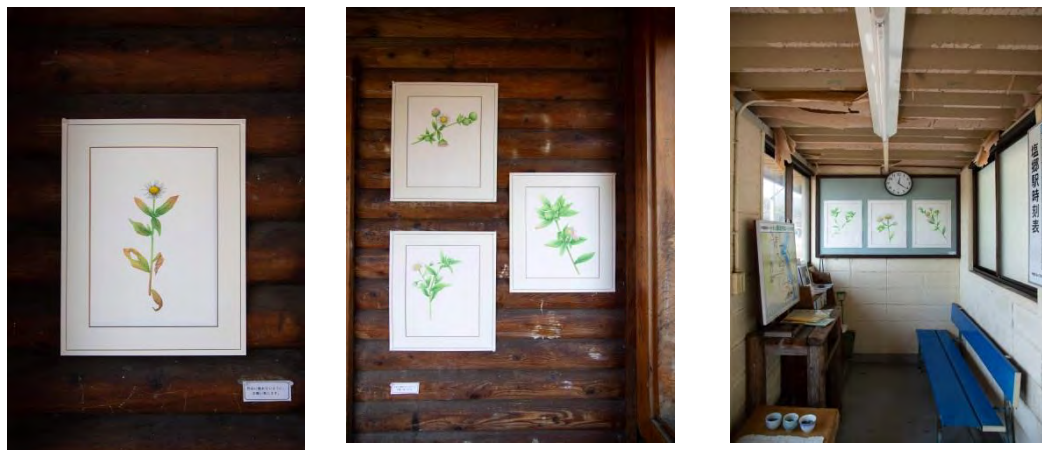
アーティスト クロダユキ
作品タイトル 記憶の気配
作品設置場所 佐澤薬師堂

六十年毎、庚子年に行われる大祭をきっかけに、この地にひよんどりが復活した。大祭もひよんどりも、その真を知るものはいるのだろうか。記憶は変容し、また別の記憶を成してゆく。水のように移ろい、重なり、剥がれ、薄らいでゆく。一つの集落の記憶を、薬師の泉に映す。



アーティスト カトウマキ
作品タイトル ここで、咲く。
作品設置場所 代官町駅・塩郷駅

観賞用に導入されたヒメジョオンは、いつしか雑草化し、鉄道の線路沿いに広がっていったそうだ。きっとこの大井川鐵道にも、白く小さな花をいくつも咲かせたであろう。しかし、今では我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれがあるとも言われている。今回、何も言わず全てを受け入れていくヒメジョオンに寄り添って制作する。



アーティスト 常葉大学造形学部
作品タイトル 星空のSL
作品設置場所 抜里駅エリア(ぬくりプラザ)

川根地区だからこそ見ることができる満天の星を数多くの灯籠で表し、上部では大井川鐵道のシンボルであるSLがこれから先も走り続けてほしいという願いを込めて駆け上がる様子を表現。水面に灯籠の明かりとSLを映すことでより幻想的な世界を演出。



05 関連イベント&プログラム =====

関連イベントは、アーティストの表現や作品制作に係る3つのプログラムを実施し、新型コロナウイルス感染拡大への配慮から、ガイドツアーや関連イベントなどは中止となった。

タイトル 江頭誠「間にあるもの」特別プログラム
動く作品に会いに行こう「江頭作品ファッションウォーク！」
開催日 3月7日(作品登壇者8名)、15日(作品登壇者15名)
開催場所 めくりプラザ周辺及び駅周辺



タイトル 公開制作&ワークショップ
春の花咲く原っぱにふんわりならべる「かみオセロ」
開催日 3月7日(参加者15名)、15日(参加者30名)※8日、14日は荒天中止
開催場所 久野脇親水公園キャンプ場



タイトル さとुरさ「地蔵まえ3 サトゴシガン」
 開催日 1月～3月 ※作品を「預かってくださる」ご家庭を募集
 開催場所 8軒の家や学校、お店などに滞在した



タイトル 「顔の家」ワークショップ
 開催日 2月8日(参加者10名)、23日(参加者15名)
 開催場所 めくりプラザ及び魚屋アト



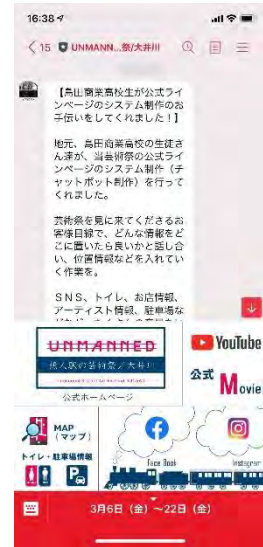
※開催を中止した関連イベント※

	イベント名	開催日	開催場所
1	公式ガイドツアー(抜里)	3月7日、15日	抜里駅エリア
2	公式ガイドツアー(塩郷)	3月14日、21日	塩郷駅エリア
3	公式ガイドツアー(福用)	3月8日、20日	福用駅エリア
4	みどり探偵団～粉 Labo	3月15日	青部駅エリア
5	晴れたらポタリング	3月8日	福用駅エリア(スタート)
6	オープニングセレモニー	3月6日	抜里駅エリア
7	給茶プロジェクト	会期中の土日	各所
8	体験型謎解きゲーム	会期中の土日	抜里駅エリア
9	講演会「これからの地域と アートの関わりとは」	3月12日	プラザおおるり(島田市)

06 その他の取り組み

地元高校生による芸術祭公式 LINE@の制作や、大学生による地域店舗を取材した回遊冊子の制作など、学生の学びや発表の場として芸術祭が機能した。

タイトル 芸術祭公式 LINE@
制作協力 静岡県立島田商業高校



タイトル 冊子「無人駅のカフェ巡り」
制作協力 常葉大学夏池ゼミ



07 無人駅の芸術祭推進会議

芸術祭フィールドとなる2市町の担当者、大井川鐵道、地元自治会やコミュニティ組織、静岡県による推進会議を計3回実施した。準備や進捗状況の共有とともに、広報や来訪者管理など運営面での協議を実施した。

◎第1回推進委員会会議◎

*日 時:令和元年12月11日(水)午前10時30分～

*会 場:金谷公民館みんくる

*参加者:16名

新聞栄一(島田市社会教育課*代理出席)、佐藤修(島田市観光課長)、中野裕文(川根本町商工観光課長)、平松敏浩(川根本町社会教育課長)、伊藤和則(大井川鐵道株式会社企画運営事業部課長)、坂下修(北五和自治会長)、鈴木曠雄(金谷コミュニティ委員会)、兒玉耕一(抜里町内会副会長*代理出席)、兒玉徳治(抜里エコポリス)、北島亨(山村都市交流センターささま)、神東美希(一般社団法人エコティかわね)

<オブザーバー出席>京極仁志(静岡県文化・観光部文化局長)、山本六三(中部地域局地域課班長)、立石沙織(静岡県文化プログラムコーディネーター)

<事務局>大石歩真(NPO法人クロスメディアしまだ)、兒玉絵美(NPO法人クロスメディアしまだ)

*議 題:

- ・開始あいさつ
- ・委員の紹介
- ・当芸術祭のこれまでの取組について
- ・今期の概要について
- ・意見交換(自己紹介含む)

◎第2回推進委員会会議◎

*日 時:令和2年2月5日(水)午前10時30分～

*会 場:金谷公民館みんくる

*参加者:17名

南條隆彦(島田市社会教育課長)、新聞栄一(島田市社会教育課)、永田真澄(島田市観光課主事*代理出席)、中野裕文(川根本町商工観光課長)、平松敏浩(川根本町社会教育課長)、伊藤和則(大井川鐵道株式会社企画運営事業部課長)、坂下修(北五和自治会長)、鈴木曠雄(金谷コミュニティ委員会)、原木悟(抜里町内会会長)、兒玉徳治(抜里エコポリス)、北島亨(山村都市交流センターささま)、神東美希(一般社団法人エコティかわね)

<オブザーバー出席>京極仁志(静岡県文化・観光部文化局長)、松本哲哉(中部地域局地域課主事*代理出席)、千葉直紀(一般社団法人CSOネットワーク)

<事務局>大石歩真(NPO法人クロスメディアしまだ)、兒玉絵美(NPO法人クロスメディアしまだ)

*議 題:

- ・開始あいさつ
- ・参加アーティスト及び作品設置駅について
- ・広報について
- ・関連イベントについて
- ・その他

◎第3回推進委員会会議◎

*日 時:令和2年3月3日(火)午後1時30分～

*会 場:金谷公民館みんくる

*参加者:11名

新聞栄一(島田市社会教育課)、中野裕文(川根本町商工観光課長)、中村靖久(川根本町社会教育課※代理出席)、伊藤和則(大井川鐵道株式会社企画運営事業部課長)、坂下修(北五和自治会長)、鈴木曠雄(金谷コミュニティ委員会)、原木悟(抜里町内会会長)、兒玉徳治(抜里エコポリス)

<オブザーバー出席>山本六三(中部地域局地域課班長)

<事務局>大石歩真(NPO法人クロスメディアしまだ)、兒玉絵美(NPO法人クロスメディアしまだ)

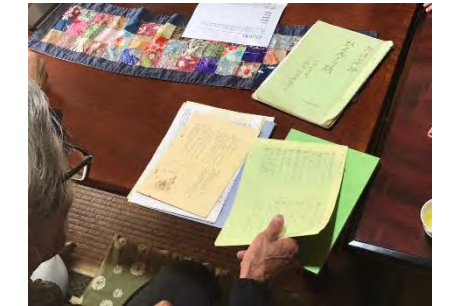
*議 題:

- ・開始あいさつ
- ・新型コロナウイルス感染対策について
- ・参加アーティスト及び作品設置駅について
- ・会期中の運営について
- ・その他



08 ボランティアサポーターの活動

アーティストを支え、来場者をご案内するサポーターには、サポーター制度「あんまん部」と、地域住民によるサポートがある。アーティストの滞在をはじめ、作品制作へのサポートはもちろん、会期における経路やアクセス案内や、作品の説明、自然発生的に行われた来訪者へのおもてなしなど、複数年の取り組みを通じ、主体的に芸術祭に関わる姿勢が生まれている。



集落の方々は、作家がプラン作りに向けた、地域の歴史や風土の先生であり、作品を制作する際の協力な支援者であり、時に作品の一部となっていたことはアーティストとの信頼関係の賜物だと感じた。



滞在作家との交流やコミュニケーションは活発化していき、来訪者へは給茶などの接待役や案内役も自主的に買って出てくれる。この芸術祭の主役は集落の方々だと再認識した。

09 来場者対応

会期中は、インフォメーションセンター内に案内係を設置し問合せに対応するとともに、来場者アンケートを実施した。主要3駅エリアに関しては、エリアマップを作成し来場者の回遊性の向上を図った。

インフォメーションセンター

抜里駅エリア(ぬくりプラザ 島田市川根町抜里 320)



エリアマップ

福用駅エリア、抜里駅エリア、塩郷駅エリア



フリーペーパー

地域情報誌 cocogane

1月号

2月号

4月号



3月号(アートとカフェをめぐる旅特集)



ウェブメディア

- 公式ウェブサイト (開催決定にあわせてリニューアルを行い、情報の集約拠点として発信した)
- Facebook (イベントの告知や、写真や動画を用いたプロモーションなどを中心に発信した)
- Instagram (集落の風景の美しさや作品の魅力を伝えることを重点において写真を投稿した)

のぼり旗

のぼりは、駅や作品周辺などに掲出した



静岡新聞(1月1日)

東京五輪・パラリンピック

大鉄 無人駅の芸術祭

3月6～22日

東京五輪・パラリンピックを記念し、大鉄沿線に芸術祭を開催する。大鉄沿線の無人駅に、大鉄沿線の魅力を伝えるアート作品を展示する。大鉄沿線の魅力を伝えるアート作品を展示する。大鉄沿線の魅力を伝えるアート作品を展示する。

住民の愛まとったオブジェ

大鉄沿線の無人駅に、大鉄沿線の魅力を伝えるアート作品を展示する。大鉄沿線の魅力を伝えるアート作品を展示する。大鉄沿線の魅力を伝えるアート作品を展示する。

文化プログラム 多彩に

大鉄沿線の無人駅に、大鉄沿線の魅力を伝えるアート作品を展示する。大鉄沿線の魅力を伝えるアート作品を展示する。大鉄沿線の魅力を伝えるアート作品を展示する。

地域一体の表現 心豊かに

郷土明歌 1700人合唱

3月9日 歌声が 静岡を知るきっかけ

静岡新聞(2月19日)

川根小 児童触れ合う

大きなお餅? 芸術作品来校

来月の催し

大鉄沿線の無人駅に、大鉄沿線の魅力を伝えるアート作品を展示する。大鉄沿線の魅力を伝えるアート作品を展示する。大鉄沿線の魅力を伝えるアート作品を展示する。

静岡新聞(エコティ川根神東氏)

無人駅から広がる「何か」見つけて

ヨソモノが見た静岡

神東美箱・エコティかわね

大鉄沿線の無人駅に、大鉄沿線の魅力を伝えるアート作品を展示する。大鉄沿線の魅力を伝えるアート作品を展示する。大鉄沿線の魅力を伝えるアート作品を展示する。

静岡新聞(3月7日)

静岡文化プログラム

舞台は大鉄の無人駅

芸術祭開幕 アート作品6駅彩る

大鉄沿線の無人駅に、大鉄沿線の魅力を伝えるアート作品を展示する。大鉄沿線の魅力を伝えるアート作品を展示する。大鉄沿線の魅力を伝えるアート作品を展示する。

読売新聞(3月10日)

12S 静岡? 掲載 24

大井川鉄道 作家13組が野外展示

無人駅アートと融合

大鉄沿線の無人駅に、大鉄沿線の魅力を伝えるアート作品を展示する。大鉄沿線の魅力を伝えるアート作品を展示する。大鉄沿線の魅力を伝えるアート作品を展示する。



◆ 今月のレポート

周囲の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします



上:プラットフォームに鎮座する「白い地蔵」とうりさ「地蔵まえ」のUNMANNED/中:番落の「仮替たが」が作品を身に纏って歩く江頭誠/間にあるもの/下:島田市川根町出身の作家・中村昌司による「黒いオウゴン」

● UNMANNED 無人駅の芸術祭、大井川2020
 [会期] 2020年3月6日～22日
 [会場] 大井川(鐵道無人駅周辺(静岡県島田市・川根本町))
 [主催] NPO法人クロスメディアしまだ <http://cms.or.jp/>
 [共催] 静岡県文化プログラム推進委員会 [協力] 大井川鐵道(株)、島田市、川根本町 [参加アーティスト] 関口恒男、江頭誠、さとうりさ、木村健世、北川貴好、栗原亜由子、ニシダヒデアミ、夏池隆、中村昌司、形勢り菜、クロダユキ、カトクマキ、常葉大学造形学部

「越すに越されぬ大井川」と謳われた大井川の両岸に広がる静岡県島田市。かつて東海道の宿場町として栄え、現在は緑茶の名産地として知られるが、2005年の約11万人をピークに20年には約9万8千人にまで人口が減少。特に山間部では高齢化が進み、大井川沿いを走る大井川鐵道も19駅中15駅が無人駅。その無人駅で2018年から開催されているのが「UNMANNED無人駅の芸術祭/大井川」だ。折悪しく新型コロナ対応で縮小開催となったが、13組のアーティストが作品を展開している現地を、3月6日、7日のオープニングに訪れた。

3回目となる今年はメインの福用駅、抜里駅、塩郷駅やその周辺などに作品が展示された。ダム取水によってほとんど流水のなくなった広大な河原が溪谷を激しく蛇行する大井川、美しい茶畑、古い駅舎という“場”に、大規模ではないがアーティストが地域との関係を丁寧に積み上げ、交流を楽しんだであろう愛情のこもった作品の魅力がプラスされていた。

例えば、1回目から参加しているさとうりさは、抜里駅に小学生の背丈ほどの白く丸みのある造形物「地蔵まえ(サトゴシガン)」を設置。その子は、会期前、8軒の家に2泊3日の“里子”に出されていた。迎えた人々は、一緒に炬燵に入ったり、服を着せたり、抱きついたり、家族のように交流。駅舎にはその様子を自撮りした“家族写真”も飾られていた。「私のテーマはパブリックとプライベートの境目を探ること。作品がお地蔵さんのように地域の人たちの日常に馴染み、受け入れられるのかを“里子”という新しい仕組みで試した」(さとう)。

木村健世は、駅周辺の住民から聞き取った思い出を元に新しい回想文を創作し、地域の記憶にふれるような短編集をつくった。1回目の福用駅編、2回目の駿河徳山駅編、そして今回は新作の抜里駅編で、各駅のブックシェルフに持ち帰り自由の文庫本として展示。また、駄菓子屋から鋳型工場になった建物、通称「せんべや(せんべいや)」では、北川貴好が家主や近所のおばあちゃんたちの出演でつくった“せん

べや”の謎に迫るユニークな映像作品を上映。江頭誠の花柄毛布製の農作業服を着た地域のおじさんたちの写真撮影も行われた。

この芸術祭を企画・運営しているのが、島田市でまちづくりを行う「NPO法人クロスメディアしまだ」だ。教育委員会社会教育課長の南條隆彦さんは、「そもそも、災害時に備えるプラットフォームとして市・民間・市民が検討し、情報発信と市民活動の活性化を目的にポータルサイト「eコミュニティしまだ」を立ち上げたのが始まり。それを本格化するため、2010年に任意団体クロスメディアしまだ(翌年NPO法人化)を設立した」と振り返る。その時、事務局長(現NPO法人理事長)になったのが名古屋で広告代理店を経営し、Uターンしてきた大石歩真さんだった。「まずサイトで“島田が好き人”の情報を発信した。そして、地域のコーディネーターとしてその人たちが交流する場を立ち上げていった」と大石さん。

この大石さんに加えてもうひとりのキーパーソンになったのが、NPO法人の事務局長になった元島田市商工会職員の兒玉絵美さんだ。「新潟の「大地の芸術祭」で地域の人とアートの関わりに感銘を受けたのが原体験。北川フラムさんやスタッフの関口正洋さんに飛び込みで挨拶もした」という兒玉さんは、2017年に商店街の空き店舗の活性化を考えるプロジェクトとして「ART CONNECT SHIMADA」を提案。アートの素人を自認する二人は、プロジェクトの内容をみんなで考えるワークショップからスタート。みんなが楽しんでいるのを見た二人は大井川鐵道の無人駅に舞台を移し、静岡県文化プログラムに応募。市のサポートに加え、県のコーディネーターからもアドバイスを受けて試行錯誤しながら形をつくり上げてきた。

島田生まれ・育ちのネットワークに加え、まちづくりで培った人の懐に入り込む大胆さと丁寧な関係づくりでアートという異物を受け入れる人々の寛容性を高め、アーティストたちの本気を引き出した小さな芸術祭——「身近な人が豊かな気持ちで暮らしていることが私たちの評価指標」という大石さんの言葉がすべてを物語っていた。(アートジャーナリスト・山下里加)

旅のきっかけになる展覧会が目白押し！
2020年、注目の芸術祭&美術展

地域の魅力を感じながら、多くの作品も鑑賞できる芸術祭が、全国各県で開催。美術館も多勢で、クラシックな美術館から現代アートまでよりどりみどりで、特に今年は日本のカルチャーを紹介する展覧会が充実

art festival
 芸術祭

UNMANNED 無人駅の芸術祭/大井川2020
 ●3/6～22
 ●静岡市・島田市、川根本町

無人駅を新たな舞台にした芸術祭。この地で制作された作品を公開

静岡県の大井川沿いに無人駅がある。その無人駅を舞台にした芸術祭が、今年注目の芸術祭。この地で制作された作品を公開

「アートフェスティバル」や「アートフェスティバル」など、地域の魅力を伝えるアートフェスティバルを開催。アートフェスティバルを開催。アートフェスティバルを開催。

この春はアートな町へひとり旅
oz TRIP
 春のひとり旅

アートな町で楽しい1日を！
春のひとり旅

アートな町で楽しい1日を！
 春のひとり旅

月刊美術

月刊美術のページ。アート展覧会やイベントの情報が掲載されている。

朱葉会展
 女流公募
 水彩画展

作品鑑賞 地味、江森、影野 一承ります

MGMアートサービス

静岡新聞(文化プログラム広報)

アートと地域が密接に関わる形【地域づくり】

将来の担い手となる人材の育成【次世代へつなぐ】

静岡文化プログラム
 レガシー創出
 文化プログラム

グランシップマガジン

2020 WINTER/SPRING
 静岡県文化プログラム2020フェスティバル「プロブレックス」から、プログラムをピックアップ。

3/6[金]・22[日]
UNMANNED 無人駅の芸術祭/大井川2020

無人駅を舞台にした芸術祭の魅力を伝える。

県民だより

無人駅を舞台に地域に新たな光を
3/6～22

UNMANNED 無人駅の芸術祭/大井川

無人駅を舞台にした芸術祭の魅力を伝える。

「ほりおさ・あらわす・ともひらく」をコンセプトに今年で3回目を迎えた。今後はおもてなしの心をより強く出していくことを目指す。

児玉絵美さん、大石歩真さん

アシスタント・コーディネーター 立石沙織さん

FDA 機内誌

地域と人がつながる・広がる

するがのくにの芸術祭 富士の山ビエンナーレ

旧東海道沿いに残る歴史的な街並みや製紙業などの地場産業が生まれた場所に現代アートを制作・展示し、地域活性化を目指す。

UNMANNED 無人駅の芸術祭/大井川
 (島田市・川根本町)
 大井川に沿って走る大井川鉄道の無人駅。ひっそりと、無落の人々の日常を見つめ、里山の風景に溶け込む存在をアートの世界へつなげ、地域再生を図る。

熱海怪獣映画祭 (熱海市)
 熱海を舞台にした作品を中心に、話題の怪獣映画を上映する。

トコチャン番組冊子

島田市 UNMANNED 無人駅の芸術祭 大井川2020

大井川鐵道の無人駅と周辺を舞台に、芸術祭を開催。無人駅のエリアで、豊かに暮らす人々や美しい景色が息づく魅力を10組のアーティストが多彩に表現します。

日時 3月6日(金)~22日(日)
場所 大井川鐵道無人駅とその周辺(島田市、川根本町)
問合せ NPO法人クロスメディアしまだ tel.0547-35-0018




さとうりさ「地蔵まえ3 サトコンガン」
(photo:鈴木竜一朗)

地域創造
レター

●静岡県島田市、川根本町
3月6日~22日
UNMANNED無人駅の芸術祭
大井川2020

大井川鐵道沿線の無人駅エリアを舞台にした芸術祭。3回目の開催となる今回は、13組のアーティストが市内の空き家に滞在し、市民と交流しながら作品を制作する。作品を個人宅に貸し出すプロジェクトや作品制作ワークショップのほか、「あんまん館」と呼ばれるサポーターを募り、市内外からさまざまな形で参加できる。また会期中はお茶どころならではの給茶スポットや緑側カフェも楽しめる。

◎大井川鐵道無人駅周辺
◎NPO法人クロスメディアしまだ
Tel. 0547-35-0018



前回の展示風景 中崎通 (Tea Factory Ballade) ©UNMANNED 無人駅の芸術祭

| パブリシティ実績 | テレビ・ラジオ |

- SBS テレビ(放送日 3月8日 ニュース)
- 静岡第一テレビ(放送日 3月18日 ニュース)
- 静岡朝日テレビ(放送日 3月〇日 ニュース)
- トコチャン(放送日 3月5日 トコチャンワイド)

- FM 島田(CM 放送 3月6日~22日)
- FM 島田(番組出演 3月6日)
- FM 島田(番組出演 3月13日)
- SBS ラジオ(電話出演 2月19日)